

# 日産車体株式会社

## 2021年度 決算説明

(2022年3月期)



2022年5月

# 2021年度の出来事と主な成果

## 【2017-2022中期経営計画 2021年度の振り返り】

### [1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- 燃費、排ガス性能を高め、LCV CAFE(企業別平均燃費基準)に対応。同時に、商品力を向上させたAD、NV200バネット、キャラバン(ガソリン・ディーゼル)のマイナーチェンジ車の立ち上げ
- フリート販売支援として、中近東のお客さまとのオンラインでのダイレクトコミュニケーションやその他の地域での商品勉強会、拡販イベント支援を実施
- PATROL、Infiniti QX80スペシャルバージョン、PATROL NISMOが好調

### [2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 国内市場初期品質において、AD、NV200バネットが日産グループ内トップレベルを維持

### [3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- 次期型車に向けて着実に技術を蓄積  
LCVの使われ方に則した先進安全技術の制御ロジック開発  
次期型フレーム車を見据えたプレス工法、アッセンブリ工法の検証

# 決算サマリー

感染症の拡大影響や半導体不足等により生産活動が制約される状況が続き、また、有償支給取引における「収益認識に関する会計基準」等の適用により、減収・減益となった。

## 売上台数

半導体不足に起因する減産等により、前連結会計年度比15.4%減の11.4万台

## 売上高

主に台数減少の影響や、有償支給取引等における「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等の適用により1,475億円減収の2,153億円

## 営業損益

売上台数の減少等により、40億円悪化の35億円の損失

## 親会社株主に帰属する当期純損益

41億円悪化の22億円の損失

## 設備投資

新商品、マイナーチェンジによる商品力強化、生産設備の合理化、厚生施設の改善、環境改善など、80億円の設備投資を実施いたしました。

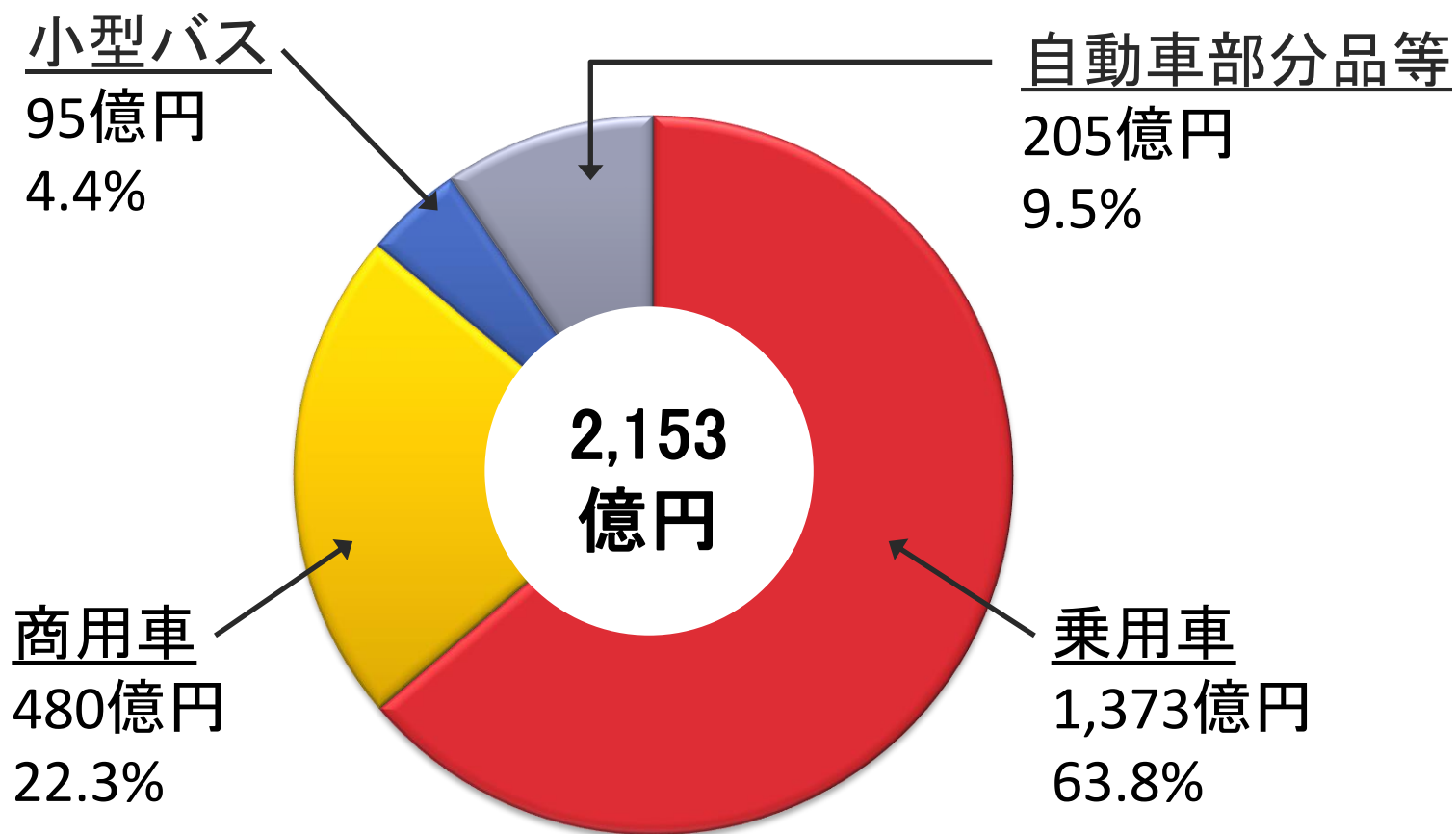
2021年度 通期決算

# 業績ハイライト

	2020年度 (2021/3)	2021年度 (2022/3)	増減額	増減率
売上高	3,628	2,153	▲1,475	—
営業損益	4	▲ 35	▲40	—
経常損益	19	▲ 25	▲45	—
親会社株主に帰属 する当期純損益	19	▲ 22	▲41	—

単位：億円

# 品目別売上高構成比

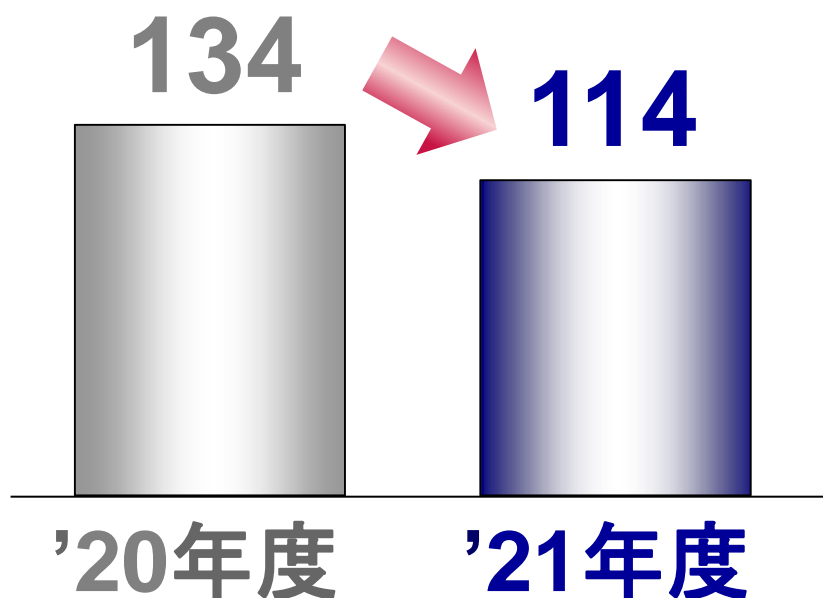


# 売上台数

半導体不足に起因する減産等により、前連結会計年度比15.4%減の11.4万台

(千台)

(千台)

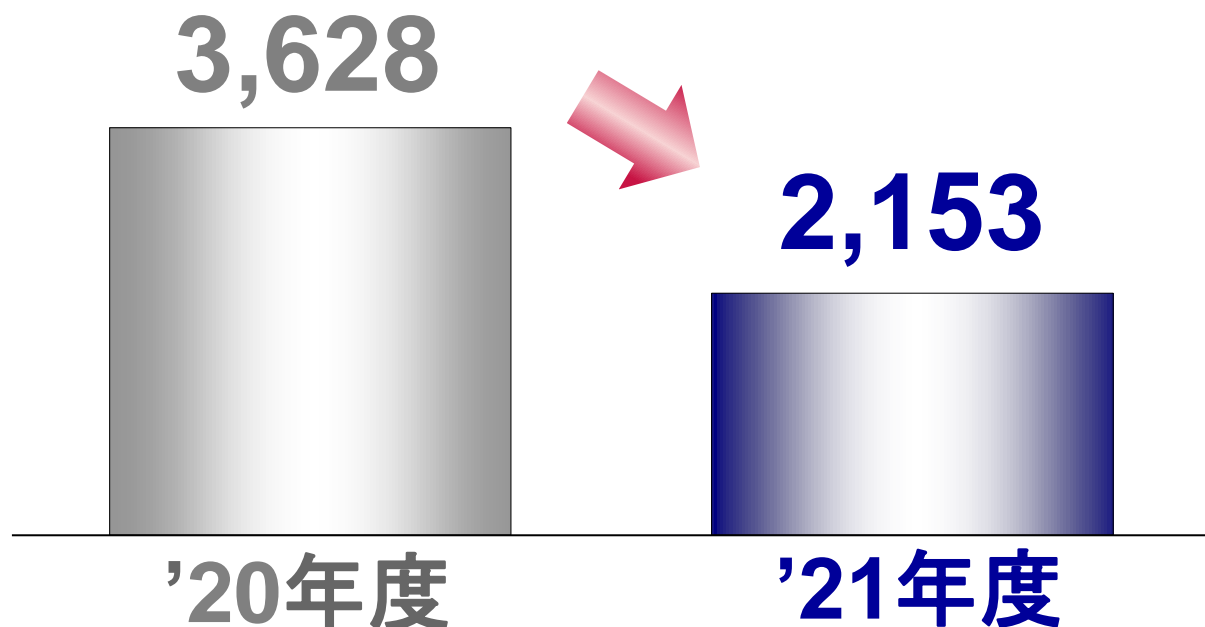


	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	61	57	▲6.5%
商用車	66	49	▲25.1%
小型バス	8	8	▲3.1%
合計	134	114	▲15.4%

# 売上高

主に台数減少の影響や、有償支給取引等における「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等の適用により1,475億円減収の2,153億円

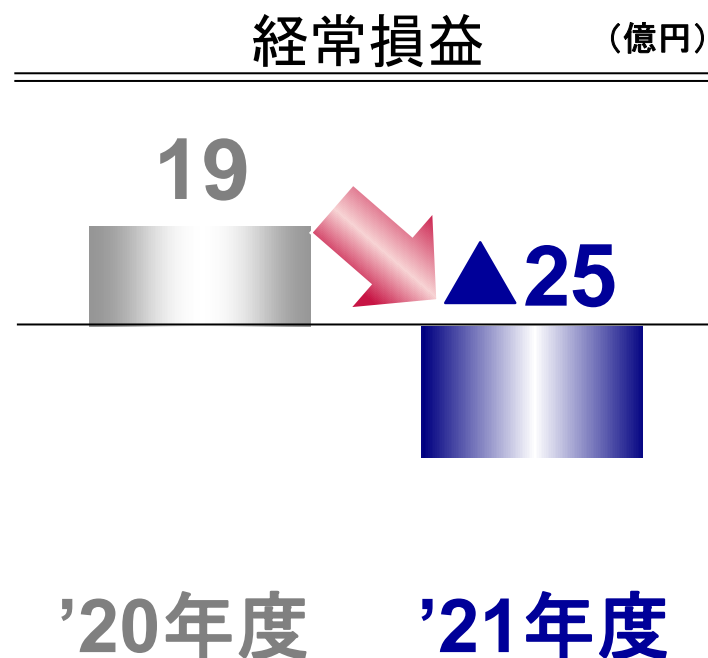
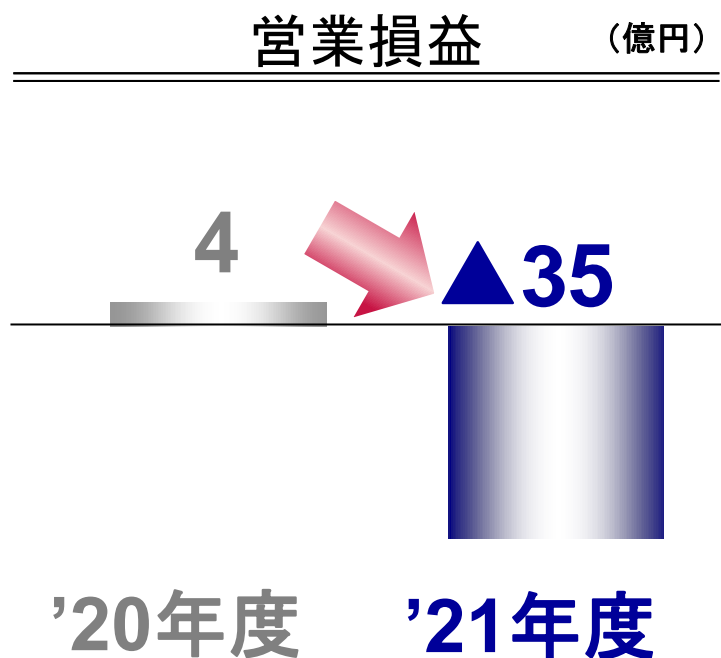
(億円)



2021年度 通期決算

# 営業損益／経常損益

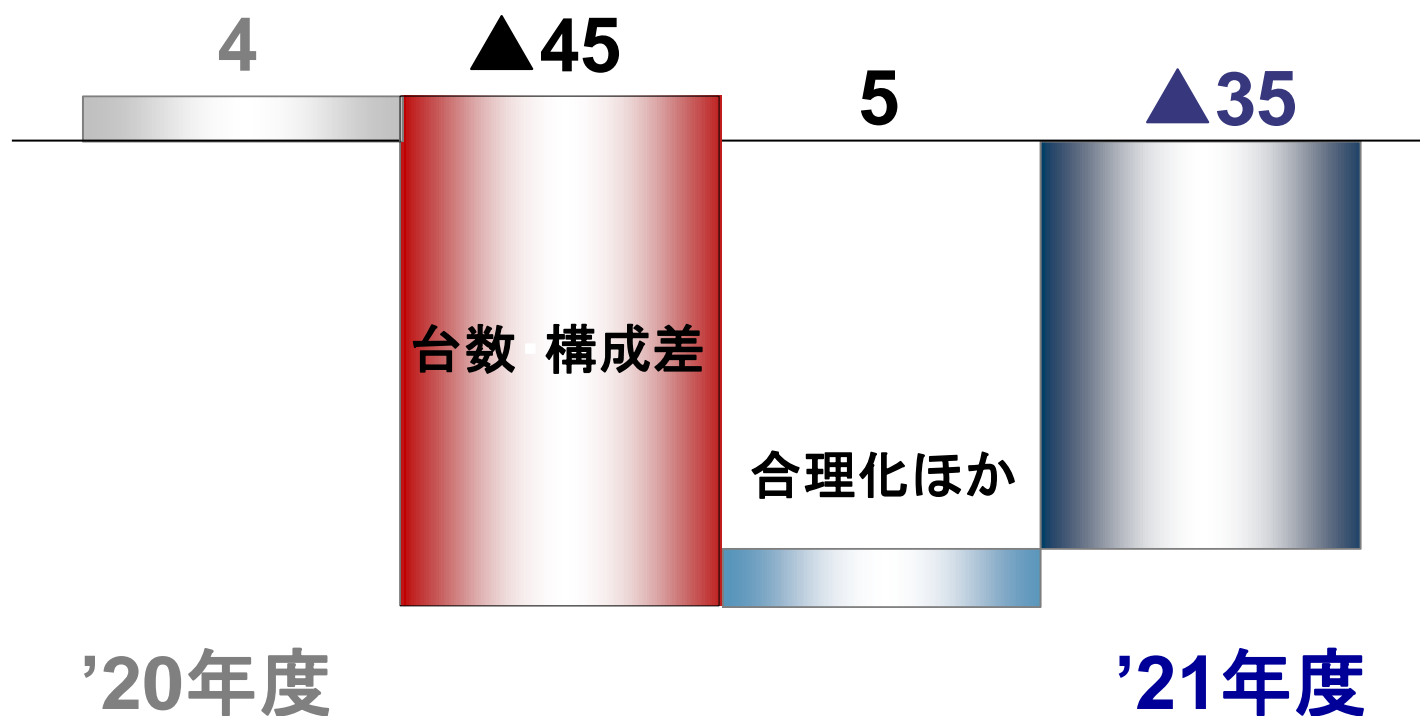
売上台数の減少等により、40億円悪化の35億円の損失





# 営業損益の増減要因

(億円)

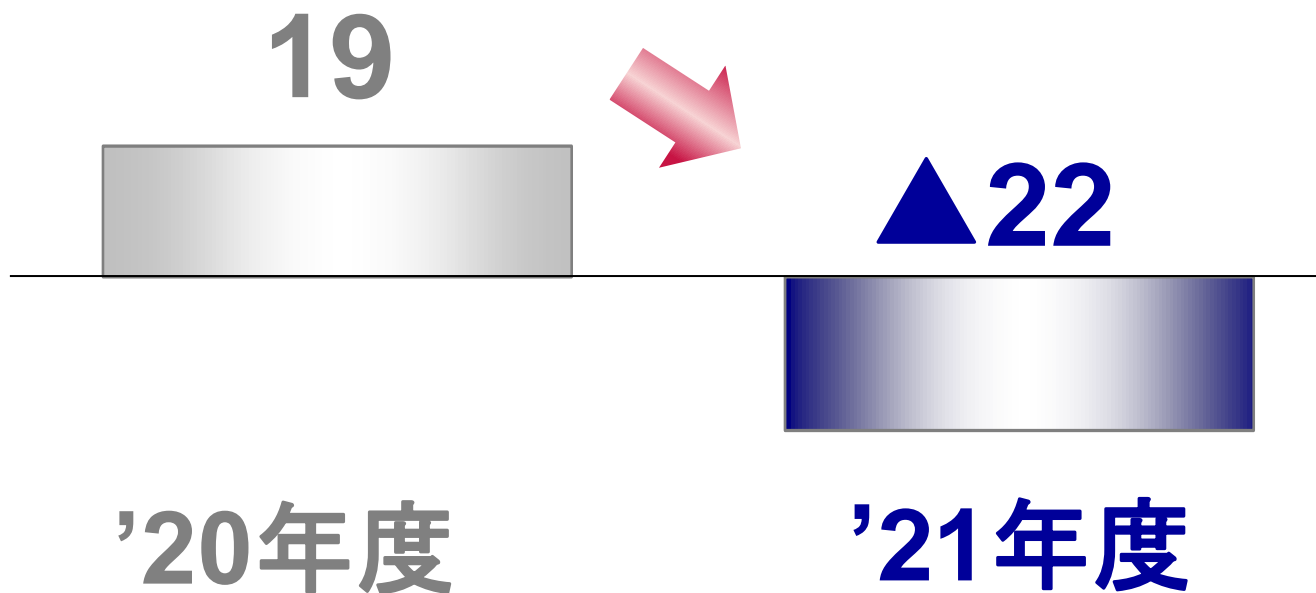


2021年度 通期決算

# 親会社株主に帰属する当期純損益

41億円悪化の22億円の損失

(億円)



# 2022年度 連結業績見通し

---

# 2022年度の主な取り組み

【2017-2022中期経営計画 2022年度の振り返り】

## [1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- 各国法規や社会要件にタイムリーに対応するとともに、商品力の更なる強化に継続的に取り組む日本でのお客様の声を聞く活動、営業イベントの支援等に加え、新規の活動を追加
- 中近東における中小企業向け拡販を支援、及びフィリピンでの大口顧客との商談をオンラインで支援
- さらなる新規市場の開拓のために「移動事務室車」等、新しい特装車に取り組み、ビジネスを拡大

## [2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 湘南工場において、生産台数に見合った適正化に取り組み、品質を中心に据えた上でQCT競争力強化を図る
- 日産車体九州において、次期型車の生産準備を確実に進める
- 併せて、将来のカーボンニュートラルへの取り組みを推進

## [3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- LCV商品力向上に加え、次期型車や今後求められる技術を見据えて、新たなアイテムの積み上げを強化

# 2022年度の業績予想

## <取り巻く環境と見通し>

引き続き部品の供給不足により生産活動が制約されることや原材料価格の高騰等、不透明な状況が続くと考えられるが、半導体を始めとする各種部品の供給不足等のリスクの低減と稼働の正常化に努め、2023年3月期の生産台数は2022年3月期と比べ増加を見込んでいる

	2021年度 (実績)	2022年度 (計画)	増減額	増減率
売上高	2,153	3,143	989	45.9%
営業利益	▲35	95	130	—
経常利益	▲25	99	124	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲22	64	86	—

単位:億円

# 株主還元

---

# 株主還元

継続的な安定配当を基本に、年間13円を予定

■ 中間配当金 ■ 期末配当金

